いわし雲

加藤邦章

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
いわし雲

【Ｎコード】
Ｎ１７４５Ｚ

【作者名】
加藤邦章

【あらすじ】
写真好きの主人公がいわし雲を撮るまでの話です。

十八の始まり

今年で十八になるが、周りいわく私の外見はそれ以上に見えるらしい。この間街を歩いた時も、二十歳以上を対象にしたアンケートに呼び止められ、私が二十歳に満たないと知るやいなや相手は肩を落として別の人に声をかけていった。

原因をひとつ上げるとするならひげだ。私は以前と比べて顔にひげが目立つようになった。何かしらのこだわりがあって剃らないわけではなく、いわゆる不精ひげだ。周りからは剃ったほうがいいと言われているのだが、いかんせん剃る気になれない。面倒くさいから以外の言葉で理由を説明するとしたら、ひげを剃ることによる利点が見つからないからだ。

おそらく今も伸び続けているであろうあごひげをさすりながら、私はカメラを操作している。電池の残量はもう三分の一も残っていないが、私はまだ写真を撮り足りない。十八になった記念にカメラをかってから、私の趣味はそのカメラで写真を撮ることだ。今まで何をやっても長続きせず三日続けば長いほうである私だが、何か理由を見つけて遠くへ出かけては、気に入った風景を写真におさめるという休日を、カメラを買ってから半年も過ごしている。撮った写真を現像してはアルバムにしまい、ふと思い立ってアルバムの写真を眺め、我ながらいい写真が撮れたとニヤニヤしたり、この写真を撮っている時はこんなことを考えていたなと考えている時が、私にとって数少ない幸せを感じる時だ。

「あ、いわし雲だ。」

不意にそんな声が聞こえた。女の声、私は聞き覚えがあった。

坂本さんといわし雲

声の主は、案の定知り合いだった。知り合いと言っても昔からのではなく、写真撮影を始めてからの知り合い、つまり私のカメラ仲間だ。性は坂本、名は茜、私は彼女を坂本さんと呼んでいる。

坂本さんはいわし雲を見つけると、懐からデジカメを取り出し、カシャッという音を立てた。私もカメラを雲の方へ向ける。

「あっ」

残りわずかだった電池が底を尽き、画面に何も映らなくなった。隣で坂本さんがくすくすと笑うのが聞こえた。

「ご愁傷様。」

人が死んだようにカメラの電池切れを笑う坂本さん、普段なら怒り狂っている所だが、坂本さんのくったくの無い笑顔を見ているとこっちまで笑えてくるから不思議だ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1745z/

いわし雲

2011年12月9日01時49分発行